

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子育てステーションこどもり		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 24日		～ 2025年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年 2月 24日		～ 2025年 3月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様なプログラムを設定し、飽きが来ず子どもたちが楽しく取り組めるようにしている。	特性や成長段階、興味やニーズを考え楽しく活動できるように目づ、多様な経験ができるよう十分な時間をかけてプログラム内容を検討している。子どもたちの発達段階に応じて多様な対応ができるように準備している。子どもたちが自分でできたと感じられる機会を作るよう心掛けている。	新しいプログラムを取り入れ、内容に変化を加える。同一プログラムであっても子どもの成長を実感できる機会として提供する。
2	小学生のみの受け入れのため年齢の近い子との交流が生まれる。どの曜日も1年生から6年生まで在籍しているため、上級生の姿を見て成長することができる。	子どもの特性や性格など多角的に考慮し、利用者が楽しく通えるような曜日設定をしている。	利用者の要望に応じて曜日変更を受け入れるなど柔軟に対応していく。
3	安全に活動や運動できるプレイルームがある	ボール遊びや鬼ごっこができるプレイルームがあり、活動や自由遊びの時間に活用している。複数の活動をするときにはパーティションで部屋を区切り同じ空間で複数の活動もできる。	現在行っている安全点検や備品の点検を継続して行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	周辺地域との関わりが薄い	個人情報保護や利用者の安全の確保の観点から見て、地域住民を招くような催しを実施することは難しい。学校後の時間のため、交流の時間を確保することは困難である。	他のデイサービスや学童との交流は難しく現実的ではない。地域の施設を訪れるなど招き入れる以外の交流を検討している。
2	マニュアル等の保護者の方への周知が不十分	契約時に水害発生時の災害対策を説明、避難訓練については通信やLINEを用いてお知らせをしているが、マニュアルを保護者の方が見る機会は無かった。	マニュアルを実際に手にとって見れる状況を作り、知ってもらえる環境を整備する。
3			